

# 弘大COIの成果学ぶ

## 文科省で職員向け研修会

健康寿命の延伸を研究する弘前大学COI（センター・オブ・イノベーションプログラム）の成功事例を

文科科学省の職員が学ぶ研修会が26日、同省で行われた。同COI副拠点長の村下公一・同大教授が、短命県返上につながる研究のポイントについて講演した。

同COIは弘前市岩木地区の住民を対象とした「岩木健診」を2005年から実施。野菜摂取の状況や運

動機能など約2千項目を調べ、集めた健康ビッグデータを活用して健康寿命延伸研究に取り組んでいる。



弘大COIの成果と意義を文科省職員に語る村下教授—文科省

「受診者の行動変容につなげる」とが得意な「岩木健診」の意義を強調

村下教授は「弘大COIの真骨頂が岩木健診」とし、健常時の幅広いビッグデータの解析で病気予防につなげるとした。また、研究を集約した複数の健診項目で将来の発病リスクを予測する「QOL（生活の質）健

診モデル」の実証・標準化に成功したことで「受診者の行動変容につなげる」とが得意な「岩木健診」の意義を強調した。研修会では同健診で使用されている最新機器の体験も行われ、参加した職員らが自身の野菜摂取レベルや自律神経の状態などを確認していた。（若松清巳）